

学位論文審査の結果の要旨

Indria Wahyu Mulsanti

本研究は、イネ (*Oryza sativa* L.) の倒伏抵抗性に関わる強稈形質の量的形質遺伝子座 (QTL) を特定しその作用機作を解明するため、稈は細いが強稈質の日本型品種コシヒカリと稈は太いがもろい稈質のインド型品種タカナリとの染色体断片置換系統群 (CSSLs) を用いて検討したものである。その結果、タカナリ遺伝背景でコシヒカリの対立遺伝子が強稈質に関わる曲げ応力、セルロース、ヘミセルロース密度を高める QTL を推定し、第 5 染色体に曲げ応力とセルロース密度を高める QTL を特定した。さらに、第 5 染色体の QTL の領域内にセルロース蓄積に関わる候補遺伝子を見出した。これらの知見は、イネの日本型品種を用いて東南アジア等で広く栽培され、大型台風で倒伏が問題となっているインド型品種の倒伏抵抗性の改良に大きく貢献するものである。

以上のように、本論文は多くの知見を有すること、論文の内容、構成および公表論文数などから、本学位論文審査委員会は、全員一致して、本論文が博士（農学）の学位論文として十分価値があるものと判断し、合格と判定した。

最終試験の結果の要旨

Indria Wahyu Mulsanti

最終試験は、平成30年6月21日に東京農工大学農学部にて、学位論文の公開発表に引き続き、論文審査委員により行われた。最終試験では学位論文の専門領域に関する質疑応答がなされた。その結果、本審査委員会は Indria Wahyu Mulsanti 君が自立して研究を進めることができる学力と見識を有しており、博士（農学）の学位を授与するに足る資格があると認め、最終試験を合格と判定した。